

沖縄県平和祈念資料館だより

歴史を学び、平和を考える

4月に沖縄県平和祈念資料館に赴任してから、4月余りが過ぎました。その間、何度も常設展示室を観覧し、こどもプロセス企画展に足を運び、職員が講師を務める平和講話を聴講したりと、職務を遂行しながら、多くのことを学ばせてもらっています。復帰前に義務教育を受け、社会科の教科書とは別に「沖縄の歴史」という副読本を学んだ世代で、沖縄戦についてある程度の知識は持っているつもりでしたが、毎日が学びの連続です。

自身が改めて学びながら、若い世代にも沖縄戦について、そこで得た教訓について、もっと学んで欲しいという想いを日々強くしています。

沖縄戦の実相とその歴史的教訓を正しく次代に伝え、平和を希求する沖縄の心を発信し、恒久平和の樹立に寄与することを設立理念とする沖縄県平和祈念資料館は、平和教育の場としても大きな役割を果たしています。開館以来、県内外及び国外からも、多くの皆様にご来館いただき、去る6月15日には650万人目の来館者を迎えることができました。平成12年の開館から、毎年40万人余の方が平和祈念資料館を訪れて下さったこととなります。しかしながら、残念なことに、ここ数年の来館者数は40万人を大きく割り込んでいます。なかでも、県民の来館は減少傾向が続いており、歴史認識や平和教育への取り組みが県外と逆転しているのではないかと危惧されます。多くの県民の皆様にご来館いただき、沖縄戦の実相と歴史的教訓を学んでいただきたいと思います。

当館では、児童・生徒の平和メッセージ展や特別企画展の開催、こども・プロセス展示室での催事等、皆様の学びの一助となるよう、様々な取り組みを行っています。

また、海外からの来館者が増加し続けていることから、今年4月には5カ国語表記による説明文が読めるタブレットと、10カ国語による音声ガイダンスを導入しました。これは大変好評で、外国の方々に沖縄戦の悲惨さや人類が学ぶべき教訓、平和を希求する沖縄の心を理解していただくのに、非常に役立っていると思います。あわせて、インターネットでの情報発信や資料の貸出、展示会等への助言など、来館できない方々への平和発信も、確実に成果が上がっているところです。

世界のいたるところで、内戦やテロが勃発し、平和な日々が簡単に脅かされる昨今、一人一人が歴史の教訓を学び、恒久平和を樹立するために何をなすべきか、考える必要があると思います。

沖縄県平和祈念資料館を、学び、考える場としてご利用いただければ幸いです。

沖縄県平和祈念資料館館長 原田 直美



小学校低学年の部
真喜良小2年 西村 美音

第26回 「児童・生徒の 平和メッセージ」

図画部門最優秀賞作品



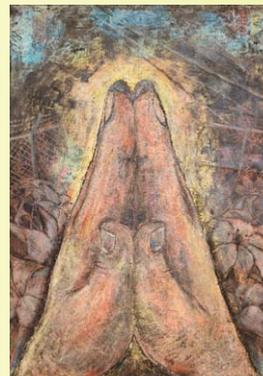
特別支援学校の部
高嶺小学校4年 濱野 蒼良



小学校高学年の部
久松小4年
上田 桐子



中学校の部
宮里中3年
金城 妃美佳



高校の部
浦添工業高3年
松田 夏姫

第26回「児童・生徒の平和メッセージ展」報告

(1) 内容

恒久平和を願う「沖縄のこころ」を県内外に発信する本館の主要事業の1つである、「児童・生徒の平和メッセージ展」も今年で26回を迎えます。戦争や人権問題など、学校で学習したこと、生活の中で感じた「平和」をイメージした図画、作文、詩を県内の小・中・高校及び特別支援学校の児童・生徒から募集し、優秀な作品を表彰するもので、沖縄県教育委員会との共催で毎年実施しています。

今回は131校から2,839点の応募がありました。毎年、入賞作品には、「作品に曲をつけたい」「絵本として出版したい」など、県内はもとより全国からも大きな反響のある事業です。見事入選した優秀作品は、当館を皮切りに、八重山平和祈念館、イオン名護店、県庁県民ホール、宮古島市役所、ハワイ大学（ハワイ州ホノルル市）の6会場で巡回展示します。今年も、戦争体験の継承について想いを綴った作品が多くありました。身内である沖縄戦体験者と寄り添う思いやり、沖縄戦の記憶の継承に積極的に関わろうとする姿勢が、児童・生徒たちの作品から伝わってきました。



(2) 開催場所・期間

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| ○沖縄県平和祈念資料館 | 6月23日(木)～7月7日(木) |
| ○八重山平和祈念館 | 7月13日(水)～7月23日(土) |
| ○イオン名護店 | 8月2日(火)～8月9日(火) |
| ○県庁1階(県民ホール) | 8月22日(月)～8月26日(金) |
| ○宮古島市役所 | 9月1日(木)～9月9日(金) ※土日除く |
| ○ハワイ州ホノルル市(ハワイ大学、ハワイ沖縄センター) | 平成29年2月1日(水)～2月14日(火) |

第26回「児童・生徒の平和メッセージ展」入選者一覧(優良賞以上)

■ 図画の部入選者

■ 作文の部入選者

■ 詩の部入選者

小学校(低)の部(8名)		小学校(低)の部(3名)		小学校(低)の部(3名)	
最優秀賞	西村美音(真喜良小2年)	最優秀賞	半嶺和歩(宮良小3年)	最優秀賞	親泊愛都(私立神綱アミークス小3年)
優秀賞	金城凛(宮良小3年) 仲盛絢香(私立海星小3年)	優秀賞	長椿(米須小3年)	優秀賞	大底龍喜(宮良小1年)
優良賞	宮井理央(私立海星小3年) 桃原用成(私立海星小3年) 当山陽向(私立海星小3年) 平良璃裳(私立海星小3年) 狩俣姫愛羅(宮良小3年)	優良賞	小濱樹愛(上本部小2年)	優良賞	半嶺穂和(宮良小1年)

小学校(高)の部(11名)		小学校(高)の部(9名)		小学校(高)の部(6名)	
最優秀賞	上田桐子(久松小4年)	最優秀賞	金城くらら(金武小6年)	最優秀賞	仲間里咲(金武小6年)
優秀賞	阿嘉美咲希(川崎小6年) 入米蔵美月(真喜良小5年)	優秀賞	比嘉七彩(大里北小6年) 比嘉こまき(大里北小6年)	優秀賞	仲本伊吹(小禄小6年)
優良賞	山城咲花(北美小6年) 中山愛唯(大謝小6年) 照屋瑠華(城南小5年) 濱川京香(小禄小6年) 金城琉南(真地小6年) 島尻姫菜(真地小6年) 新城沙也子(とよみ小6年) 友利綺良(鏡原小5年)	優良賞	當銘友萌乃(松川小6年) 名幸唯寧(上田小6年) 伊芸葉暖(金武小6年) 當間三依菜(上田小6年) 狩俣結丸(とよみ小6年) 玉城小百梨(喜名小6年)	優良賞	南慎之輔(平真小6年) 伊礼珠碧(真喜良小4年) 佐藤大空(さつき小6年) 長嶺樹歩(とよみ小6年)

中学校の部(8名)		中学校の部(7名)		中学校の部(7名)	
最優秀賞	金城妃美佳(宮里中3年)	最優秀賞	相良倫子(港川中1年)	最優秀賞	相良倫子(港川中1年)
優秀賞	天久聖菜(西原中3年) 仲間琉妃(下地中3年)	優秀賞	安仁屋紫月(開邦中1年) 大城花菜(石垣第二中3年)	優秀賞	知念琉杏(玉城中2年)
優良賞	玉城夏穂(今歸仁中3年) 石川海里(北谷中3年) 又吉来夢(宮里中3年) 玉城姫菜乃(南星中3年) 新里ひかり(久松中3年)	優良賞	坂井愛翔(港川中2年) 石川稔梨(金城中3年) 林愛由菜(私立神綱高3年) 山田はんな(豊見城中1年)	優良賞	真地美海(潮平中3年) 宮里華奈(港川中3年) 金城愛那(南風原中3年) 照屋光平(石嶺中1年) 與那原涼子(石嶺中3年)

高等学校の部(5名)		高等学校の部(8名)		高等学校の部(2名)	
最優秀賞	松田夏姫(浦添工業高3年)	最優秀賞	宮平さくら(首里高3年)	最優秀賞	島袋きらら(糸満高3年)
優秀賞	宮城百花(浦添工業高3年) 山城綾香(豊見城南高2年)	優秀賞	喜屋武遥(開邦高2年)	優秀賞	嘉納英佑(球陽高3年)
優良賞	藤紗弥(浦添工業高3年) 平良清華(小禄高2年)	優良賞	嘉納英佑(球陽高3年) 中口うらら(開邦高3年) 中川美帆(開邦高1年) 諸見里菜津美(開邦高2年) 奥間千夏(私立興南高3年) 新城光乃(首里高3年)	優良賞	該当者なし

特別支援の部(5名)		特別支援の部(3名)		特別支援の部(3名)	
最優秀賞	濱野蒼良(高嶺小4年)	最優秀賞	知名敏希(沖高特支2年)	最優秀賞	上間鈴華(安慶田小6年)
優秀賞	田中来美(城南小5年) 玉那覇鈴嗣(浦城小1年)	優秀賞	百次黄磯(仲西小6年)	優秀賞	比嘉一稀(沖高特支2年)
優良賞	徳峯一輝(北中城村立島袋小6年) 本村勇樹斗(安謝小5年)	優良賞	比嘉祥(沖高特支2年)	優良賞	我喜屋海斗(沖高特支2年)

平成28年度 第1回子ども・プロセス企画展「沖縄の戦争孤児」

沖縄戦では、12万人以上の沖縄県民が戦火で尊い命を奪われました。多くの子どもたちも戦場に動員されたり、避難中に攻撃されたりして、傷つき衰弱して死んでいきました。

沖縄戦をからくも生きのびた子どもたちも無事ではなく、体や心に大きな傷を負いました。また、4,000人以上の子どもたちが、戦争によって両親を亡くしたといわれています。

今回の企画展は、戦争に最愛の両親を奪われた「戦争孤児」に焦点をあて、5月26日～7月10日に開催しました。沖縄戦では、非常に多くの住民が犠牲になったために、生き残った「戦争孤児」はあまり注目されていませんでした。地獄のような戦場で家族の死に直面し、戦争が終わった後も親のいない孤児として様々な困難に耐えていかなければならなかった子どもが大勢いたことは、忘れてはならないことです。

平和学習で訪れた多くの児童・生徒は、同世代の子どもたちが戦争で傷つき苦しむ生々しい写真や「戦争孤児」の悲惨な証言を真剣に見学していました。沖縄戦では、住民が最大の被害を受けたという歴史的教訓について学習する企画展になりました。



平成28年度「千羽鶴引き渡し会」

当資料館には、県内外の児童・生徒や一般の方々より平和の祈りを込めた千羽鶴が毎年100万羽以上奉納されます。これらの千羽鶴は、社団法人千羽鶴未来プロジェクトを通し、再生紙やノート、ボールペンなどにリサイクルされ、戦争被災国や発展途上国の子どもたちのもとに届けられています。また、県内では名刺や表彰状として広く活用されるようになってきています。今年は6月19日(日)に当資料館大会議室にて「千羽鶴引渡し会」が開催され、糸満青年会議所及び糸満市内の小中高校生、福祉団体等、100名以上の参加者が集まり、リサイクルのための千羽鶴解体作業に汗を流しました。



沖縄県平和祈念資料館 第17回特別企画展概要 「ウチナーンチュが見た満州 ～旧満州国・偽満州国～」

1 開催期間 沖縄県平和祈念資料館 平成28年10月5日(水) ～ 12月11日(日)
八重山平和祈念館 平成28年1月21日(土) ～ 2月23日(木)

2 開催場所 沖縄県平和祈念資料館 1階企画展示室
八重山平和祈念館第2展示室

3 テーマの趣旨

中国東北部地域は、「旧満州国」が存在した地域。「旧満洲国」もしくは、「満洲国」と言えば、日本人であれば歴史の授業で学んだ覚えがあるだろう。しかし、同じ歴史事象といえども中国の歴史の授業では、「旧満州国」や「満洲国」とは呼ばない。中国では、「偽満州国」と呼ぶ。中国の立場では、「旧満州国」を「国」として認めるわけにはいかず、「偽」という文字を用い、偽りの国家と価値づけている。同じ歴史事象でもいずれの国の立場でその歴史を観るかによって、価値付けの表出である表記すら違って来るわけだ。もちろん、日本では、「旧」という文字を用い、傀儡政権という認識をもちつつ、過去に存在した国家として価値づけている。日本国内には、「旧満洲国」を故郷として愛おしく思う渡満経験者がいる。彼らにとって、「偽」の文字が用いられることは、複雑な思いであると察する。愛おしく思う気持ちも大切にしたい。

平和を創造する価値観の一つとして、「多様性」は、要となる要素である。多様な価値観・考えを担保する相互関係のうえに、平和が創造される。そこで、日本と中国のそれぞれの価値づけの表出である「旧満洲国」と「偽満洲国」という表記の違いを踏まえ、今回の特別企画展を俯瞰し、観覧者自身の価値を創造して頂きたい。そして、その価値が、それぞれの平和への思いへ結び繋がることを願う。

4 展示の構成

第Ⅰ部 雄飛を夢見た大地「旧満洲国」

「旧満州国」概要（地理的条件 南満州鉄道株式会社 皇宮）

「旧満州国軍」

当時の都市の様子（大連 新京 奉天 哈爾濱）

第Ⅱ部 ウチナーンチュの足跡

沖縄県における旧満州移民送定の経過

旧満州移民を支えた沖縄県立農林学校

那覇商業高校卒業生と旧満州

一般開拓団と自由移民

第Ⅲ部 戦に翻弄された ウチナーンチュ

満蒙開拓少年義勇軍

「旧満州国」で兵役に就いたウチナーンチュそしてシベリア抑留

関東軍

満州へ配備された沖縄出身兵

中国残留邦人

沖縄満州会

友の会活動状況

1 沖縄県平和祈念資料館友の会(平成17年設立)では、資料館と連携しながら学習会やフィールドワークを自主的に行うとともに、以下のような活動を行っています。

- (1)地域(県全域)および学校における平和学習の支援
- (2)県外からの平和学習団体への講話・ガイド
- (3)沖縄県平和祈念資料館常設展示室での解説

2 活動状況(平成28年4月から6月30日現在)

(1)平和講話・ガイド実績

団体	実施件数(昨年度比)	実施人数(昨年度比)	派遣講師(昨年度比)
高等学校	14件(-1)	5,103名(+915)	14名(-1)
中学校	48件(+3)	6,204名(-334)	48名(+3)
小学校	19件(+1)	9,171名(+2,018)	19名(+1)
その他	6件(-2)	245名(-236)	6名(-8)
合計	87件(+1)	20,723名(+2,363)	87名(-5)

県内：小学校18校、中学校9校、高校3校
 県外：小学校1校、中学校39校、高校11校

(2)常設展示室解説委員 配置実績15人
 平成28年4月～6月30日

(3)平和祈念財団こいのぼり掲揚事業への協力

(4)平成28年度 友の会総会 5月14日(土)

(5)学習会：平和学習ウォーク 5月28日(土)
 「月桃の花咲く頃 おもろまち～首里」
 講師：仲村 真氏



平成28年度友の会総会の様子

入館者650万人目 突破

開館以来、県内外から多くの皆様が当資料館を訪れています。平成28年6月15日(水)には、平成12年4月の開館以降、650万人目のお客様が訪れました。今後も当資料館では、より一層、展示・事業の充実を図り、平和を発信する役目を担っていこうと考えています。

皆様のご来館を心からお待ちしています。



千葉県千葉市の会社員 山川真愛さんと原田直美館長

コメント

「これからの平和で戦争がない未来が続くように、しっかりと勉強し身につけたいと思います。」

八重山平和祈念館 平成28年度事業実施報告

(1) 「第3回収蔵品展 ～収蔵品から見る当時の暮らし」

【期間】 平成28年5月28日（土）～6月26日（日）

前回、平成21年から7年ぶりとなる収蔵品展を行いました。主に戦前から終戦直後にかけての戦争関連資料や当時の生活道具などの展示を通して、八重山の生活の様子を伝えました。

中でも、台湾沖縄同郷会連合会が発行した「沖縄籍証明書」は大変貴重な資料でした。

訪れた方からは「今と昔を比べることができた」「昔がどのような時代か分かった」等の感想が寄せられました。



(2) 「初任者教員向け説明会」

【期間】 平成28年5月26日（木）～6月10日（金）

慰霊の日を控え、学校で平和学習が活発に行われる6月に合わせて、主に本年度の新採用教諭を対象に八重山平和祈念館の展示内容の解説や利用方法等についての説明会を実施しました。

今後の平和学習に役立てていただき、児童・生徒をはじめ、多くの方々に当祈念館を利用していただければと思います。



(3) 第26回「児童・生徒の平和メッセージ展」(八重山会場)

【期間】 平成28年7月13日（水）～7月23日（土）

本館に引き続き、入賞作の展示を行いました。開会式典には、八重山地区の佳作以上の入賞者をお招きし、作文部門で最優秀賞に輝いた半嶺和歩さん（宮良小学校）などの作品朗読や児童代表によるテープカットを行いました。

また、石垣市のご協力により、市主催「平和を考える作文」「平和を考える絵画」の入賞作品も、併せて展示しました。



第二十六回 児童・生徒の平和メッセージ

(平成二十八年沖縄全戦没者追悼式 平和の詩「朗読作品」)

詩部門 小学校高学年の部
最優秀賞

「平和ぬ世界どう大切」

ふいわ しけー てーしち

「ミーンミーン」

今年も鳴き続けることだろう

夏の蝉の鳴き声は
戦没者たちの魂のように
悲しみを訴えているということ
耳にしたような気がする
戦争で帰らぬ人となった人の魂が
蟬にやどりついているのだろうか
「ミーンミーン」
今年も鳴き続けることだろう

「おじいどうしたの？」

左うでをおさえる祖父に問う

祖父の視線を追う私
テレビでは、戦争の映像が流れている
しばらくの沈黙のあと
祖父が重たい口を開いた
「おじい、は海軍にいたんだよ」
おどろく私をよそに

「空からの弾が左うでに当たってしまったんだよ」

ひとりごとのようにつぶやく祖父の姿を
今でも覚えている

戦争のことを思い出すと痛むらしい
ズキンズキンと・・・
祖父の心の中では
戦争がまだ続いているのか

金武町立金武小学校 6年 仲間 里咲

今は亡き祖父

この蝉の鳴き声を
空のかなたで聞いているのか
死者の魂のように思っているのだろうか
しかし私は思う
戦没者の悲しみを鳴き叫ぶ蟬の声ではないと
平和を願い鳴き続けている蟬の声だと
大きな空に向かって飛び
平和の素晴らしさ草さを
私達に知らせているのだと

人は空に手をのばし

希望を込めて平和の願いを蟬とともに叫ぼう

「ミーンミーン」

「平和ぬ世界どう大切」

慰霊の日の平和祈念資料館

6月23日(木) 慰霊の日には、沖縄県主催の沖縄全戦没者追悼式が行われました。毎年この日は常設展示室の観覧を無料開放し、開館を午後6時まで1時間延長しました。

今年は常設展示室に3,701人の観覧者が入場しました。その他館内では「児童・生徒の平和メッセージ展」、「第1回子ども・プロセス企画展：沖縄の戦争孤児」、「慰霊の日ビデオ上映会」、「マブニ・ピースプロジェクト 沖縄 2016」と多彩なイベントが開催され、平和への願いを新たにする日となりました。



資料のご提供について

戦後71年を迎え、戦争を知らない多くの戦後世代へ、二度とおこしてはならない戦争の教訓を語り継いでいかなければなりません。そのためには、戦前、戦中、戦後の資料等が重要な役割を果たしていくこととなります。このような資料をお持ちの方、是非ご寄贈下さいませよう、御協力お願い致します。詳しくは、沖縄県平和祈念資料館までお問い合わせ下さい。

資料の貸出しについて

当資料館では、「沖縄戦体験者証言ビデオ」、「沖縄戦写真パネル」、「沖縄戦の絵」、「実物資料」、「平和学習キット」の貸出しを行っています。平和学習の補助教材として、県内外学校からの申込みをお待ちしております。

県内学校向け平和講話について

沖縄戦の歴史的教訓を次代へ正しく伝えることが急務となっています。当館では沖縄戦の理解と平和のために何ができるかを考えてもらうきっかけとなるよう、県内の小中高校、特別支援学校に対する「平和講話」を実施しております。内容は、沖縄戦に至るまでの歴史的経緯や沖縄戦の特徴、常設展示室の見所などです。総合学習等の一環としてさらなる活用をお願いします。年間を通して実施しておりますが、4月から慰霊の日にかけては込み合いますので早めの御予約をお願いします。

編集・発行：沖縄県平和祈念資料館

住所 〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁614番地の1
URL <http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp/>

TEL 098-997-3844 FAX 098-997-3947
E-MAIL webmaster@peace-museum.pref.okinawa.jp



日本平和博物館会議
ASSOCIATION OF JAPANESE MUSEUMS FOR PEACE